

CITATION:Lalor JG, Fawole B, Alfirevic Z, Devane D. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 1. Art. No.: CD000038. DOI: 10.1002/14651858.CD000038.pub2  
CRG名:Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月:9 November 2007  
Clib issue No.;N/U: 2008 Issue 1;Update

## アブストラクト

**背景:** バイオフィジカル・プロファイル(BPP)には、胎動、胎児の筋緊張、および胎児の呼吸の超音波モニタリング、ならびに羊水量の超音波による評価が含まれる(胎児の心拍数の評価の有無を問わない)。妊娠アウトカム不良リスクにあると思われる胎児を同定するためにBPPを実施し、その結果、健康状態に関する評価をその後追加実施するか、出産を早めるために陣痛誘発もしくは帝王切開を行う場合がある。

**目的:** ハイリスク妊娠での妊娠アウトカムに関する従来のモニタリング(CTGのみ、もしくはMBPP)と比較してBPPの効果を評価すること

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2007年10月)、CENTRAL(コクラン・ライブラリ2006年、第4号)、MEDLINE(1966年~2006年11月)、EMBASE(1974年~2006年11月)、CINAHL(1980年~2006年11月)を検索した。

Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2012年1月10日)の検索を更新し、その結果を分類待ち区分に追加した。

**選択基準:** ハイリスク妊娠の女性を対象とした胎児BPPと他のタイプの分娩前胎児評価との比較を含むランダム化および準ランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが個別に適格性、質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 女性2,974例を対象とした5試験を選択した。ほとんどの試験の質は高くはなかった。有害アウトカムの総罹患率は低かったが、ランダム化比較試験由来の入手可能なエビデンスは、ハイリスク妊娠における胎児の健康状態の検査方法としてBPPを使用することを支持していない。周産期死亡[相対リスク(RR)1.33、95%信頼区間(CI)0.60~2.98]もしくは5分後の時点でのアプガースコア7未満(RR 1.27、95%CI 0.85~1.92)のいずれにも有意な群間差は見出されなかった。質の高い2試験を組み合わせたデータはBPP群での帝王切開リスクの増加を示唆している(RR 1.60、95%CI 1.05~2.44、n = 280、相互作用検査P = 0.03)。しかしながら、参加した妊婦の数は比較的少なかった(n = 280)。したがって、ハイリスク妊娠における本検査の有効性に関して確定的なものにするためには、エビデンスの追加が必要である。さらに、他の介入、入院期間、短期間および長期間の新生児の重篤な罹病率、および親の満足度に対するBPPの効果に関しては、さらなる評価が必要である。

**レビューアの結論:** 現時点で、ハイリスク妊娠における胎児の健康状態の検査法としてBPPを使用することを裏付けるには、ランダム化試験由来のエビデンスは不十分である。

[注:本レビューの分類待ち区分の3件の引用文献を評価すると、本レビューの結論が変わる可能性がある。]

## ハイリスク妊娠における胎児評価のためのバイオフィジカル・プロファイル

ハイリスク妊娠での胎児の健康状態を評価する際にバイオフィジカル・プロファイル(BPP)を使用することを裏付けるエビデンスは不十分です。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 27日

**ご注意:**この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。